

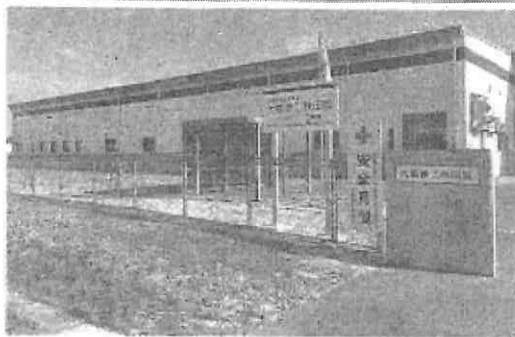
# 大橋鉄工

# 秋田の生産体制強化

## トヨタ東日本向け 地元3社と連携 来年から現地供給

自動車部品メーカーの大橋鉄工（本社北本古屋市、大橋雅史社長）は秋田県で生産体制を強化する。現在、トヨタ自動車東日本（本社宮城県大衡村）向けの部品を本社から全量供給しているが、来年初めから順次秋田の製造子会社での生産・供給に切り替える。納入リードタイムの短縮やBCP（事業継続計画）対応の強化を狙い、現地生産化に向けては地元企業3社と連携する計画で、秋田の自動車産業の発展にも貢献していきたい構えだ。

（岩崎幸一）



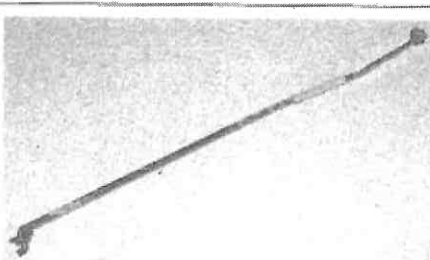
生産体制を強化する大橋鉄工 秋田（秋田県横手市）

大橋鉄工は2015年11月に秋田県横手市に製造子会社「大橋鉄工秋田」を設立。AT（自動車速機）部品の「パーキングロード」を月間約50万個生産し、トヨタ自動車北海道（苫小牧市）に直接納入しているほか、本社を通じてトヨタグループ各社に供給している。愛知と秋田の生産分散化で災害リスクを減らすBCP対応の強化が図られたものの、トヨタ東日本向けは本社からの供給が続いていた。トヨタ東日本はコスト競争力強化を狙いに

部品の現地調達拡大を進めており、大橋鉄工ではこれに対応して現地生産に切り替えることにした。

計画では、車のボンネットを開く時の支柱となる「フードサポート」、エンジンオイル量を計測する「オイルレベルゲージ」、

「オイルレベルゲージ」、オイルレベルゲージを支える「ガイドパイプ」のトヨタ東日本向けの生産を本社から大橋鉄工秋田に移す。フードサポートは来年1月から月4万2千個、オイルレベルゲージとガイドパイプは来年4月から月5万4千個、同一方5千個それぞれ



秋田で新規生産する「フードサポート」

れ生産する。トヨタ東日本に供給するほか、フードサポート、オイルレベルゲージは愛知県への供給も予定している。

現地生産にあたっては秋田の3社と連携。フード

サポートのカチオン電着塗装は秋田化学工業（にかほ市）、ガイドパイプの亜鉛めっき処理は太平化成工業（秋田市）、ガイドパイプの小物プレス品の加工は東京第一（大仙市）に協力してもらう。連携先の開拓には原輸送機産業振興室が協力。3社ともトヨタ向け部品を手掛けるのは初めてで、トヨタ東日本OBの指導を受けながら品質管理などを学んできたという。

トヨタグループと取引関係が深い大橋鉄工の進出、生産強化は「地元で自動車産業が育つきっかけになる」と関係者は大きな期待を寄せている。大橋社長は「今後は秋田で型や治具の製作、レーザー焼き入れ技術の実用化、評価試験などにも対応したい」とし、付加価値の高い業務も秋田で展開する考えを示している。